いのちかがやく京都市動物園構想２０２０

～いのちをつなぎ，いのちが輝く動物園となるために～

【本冊】

はじめに

近年，世界的に動物園の役割や位置付けが大きく変わっています。絶滅の危機に瀕している動物たちを保全する「種の保存」，動物を通じて世界の環境の現状を学ぶ「環境教育」に重きが置かれてきています。人間と自然との距離が遠のく現代において，動物園がいわば「自然への窓」として機能することが求められているのです。

また，「動物福祉」の概念が重視されるようになってきました。飼育動物たちが心身共に健康に暮らせるよう飼育環境を豊かにし，動物たちの幸福を実現することを目標に，国内外の動物園が取組を進めています。

こうした中，京都市動物園においても，「生き物・学び・研究センター」を設置し，京都大学等とも連携して研究活動を進めるとともに，ゴリラの繁殖に続いて，ラオスから寄贈を受けた４頭の子ゾウについて，繁殖に向けた取組を進めるなど，特に，「学術研究」と「環境教育」に力を入れているところです。

同じ地球に住む仲間として，動物福祉に考慮し，動物たちの保全，ひいては人間と自然の共生を目指す。これらは，持続可能な社会を目指す「ＳＤＧｓ」の理念と見事に合致するものです。京都市動物園として，生物多様性の保全を推し進め，人間を含む全ての動物の，いのちをつなぎ，いのちが輝く動物園であり続けたい・・・。そんな思いをこめて，この度「いのちかがやく京都市動物園構想２０２０」を策定いたしました。本構想に基づき京都市動物園の更なる発展に向けて全力で取組を進めてまいります。

結びに，本構想の策定に当たり多大な御尽力をいただきました「新たな「京都市動物園構想」の策定」検討会議委員の皆様，貴重な御意見をお寄せくださいました市民の皆様に，心から御礼申し上げます。

京都市長　門川　大作

「いのちかがやく京都市動物園構想２０２０」目次

１　京都市動物園の現状
共汗でつくる新「京都市動物園構想」（現構想）策定以降の成果・・・・・・・・・・・　１

２　京都市動物園の役割と更なる発展のための課題
（１）動物園の普遍的な役割と京都市動物園の役割・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４
（２）京都市動物園の更なる発展のための課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５

３　京都市動物園が目指す方向性と取組
（１）京都市動物園理念・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６
（２）行動指針・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６
（３）５つの柱と２７の施策・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・７
柱１　生物多様性の保全に力強く貢献し，日本をリードする動物園・・・・・・・・８
柱２　野生動物の行動や生態，福祉を研究する世界水準の動物園・・・・・・・・１４
柱３　文化教育施設として日本国内のオンリーワンを目指す動物園・・・・・・・１８
柱４　多くの人が集い，多くの学びを広げる動物園・・・・・・・・・・・・・・・２８
柱５　「近くて楽しい動物園」の更なる発展・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３０
（４）５つの柱と２７の施策の戦略的な推進・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３７

４　京都市動物園コレクションプラン・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３８

1 京都市動物園の現状

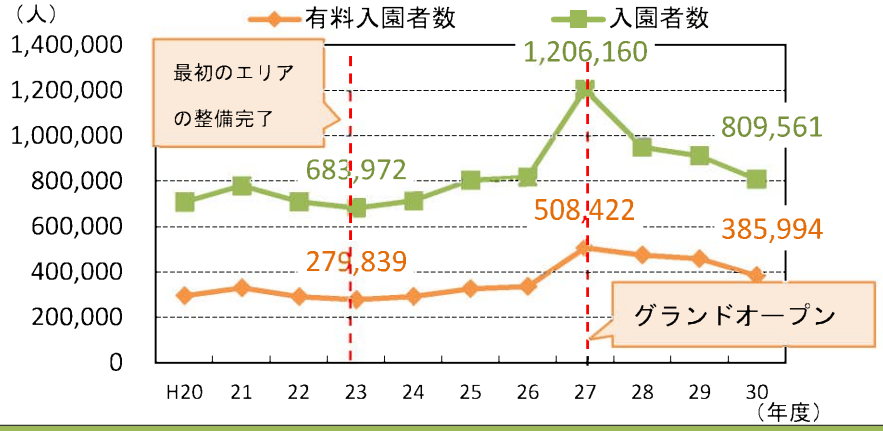
共汗でつくる新「京都市動物園構想」（現構想）策定以降の成果

現構想策定以降の成果－１：利用者

○入園者数

・最初のエリアの整備が完了した平成２３年度（２０１１）から右肩上がりとなり，グランドオープンした平成２７年度（２０１５）には，昭和５４年（１９７９）以来，３６年ぶりに１２０万人を越え，前年度比は５０．３％増となった。平成２８年度（２０１６）以降はグランドオープン効果が薄れ減少傾向にあるものの整備前よりは高い水準を維持している。

■入園者数の推移

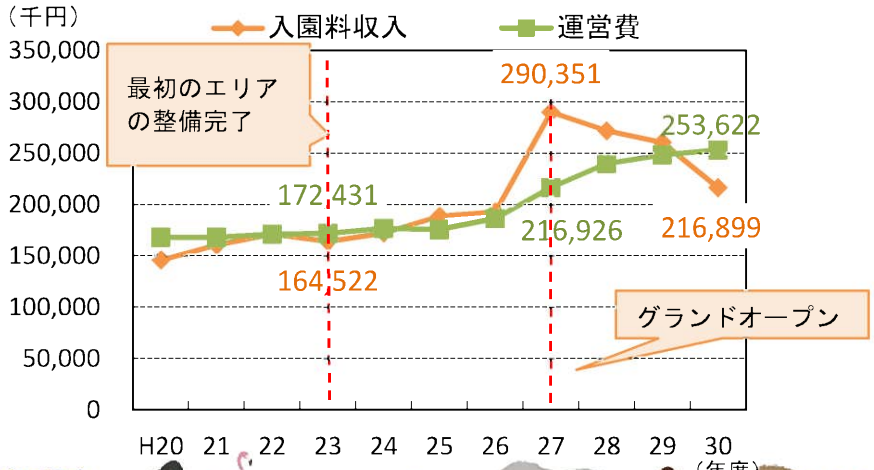


現構想策定以降の成果－２：収益

○入園料収入

・最初のエリアの整備が完了した平成２３年度（２０１１）から右肩上がりとなり，グランドオープンした平成２７年度（２０１５）には前年度比が５０．１％の大幅増となった。平成２８年度（２０１６）以降はグランドオープン効果が薄れ減少傾向にあるものの整備前よりは高い水準を維持している。

■入園料収入及び運営費の推移



現構想策定以降の成果－３：教育効果

○中学生以下の団体入園者数の増加

・平成２６年度（２０１４）に対してグランドオープンした平成２７年度（２０１５）は保育園，幼稚園，小学校，中学校全てにおいて１５％以上増加。

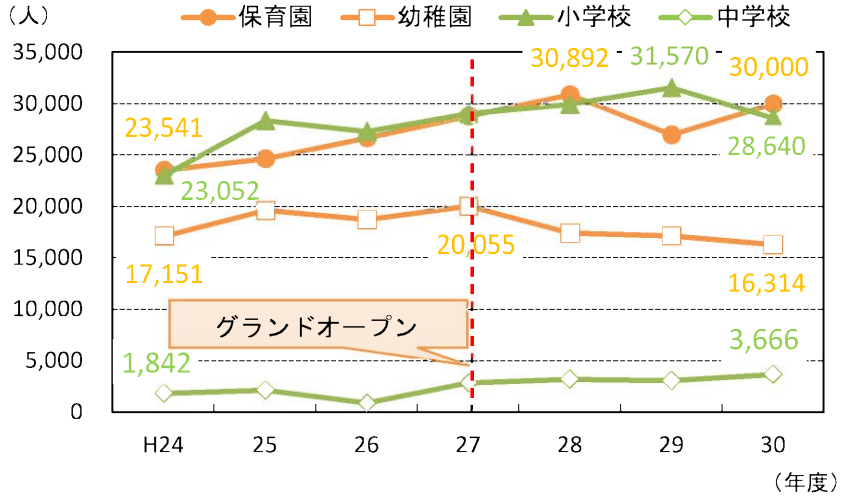
○サマースクールをはじめとする各種教育プログラムの充実

・小学校から大学生までを対象に，サマースクール，実習生の受入れ等，様々な教育プログラムを実施。

○教育機関や各種団体向けの講演回数も大幅に増加

・「生き物・学び・研究センター」を設置した平成２５年度（２０１３）以降大幅に増加，現在では年間２００件近くの講演を実施。

■中学生以下の団体入園者数の推移



■講演実績

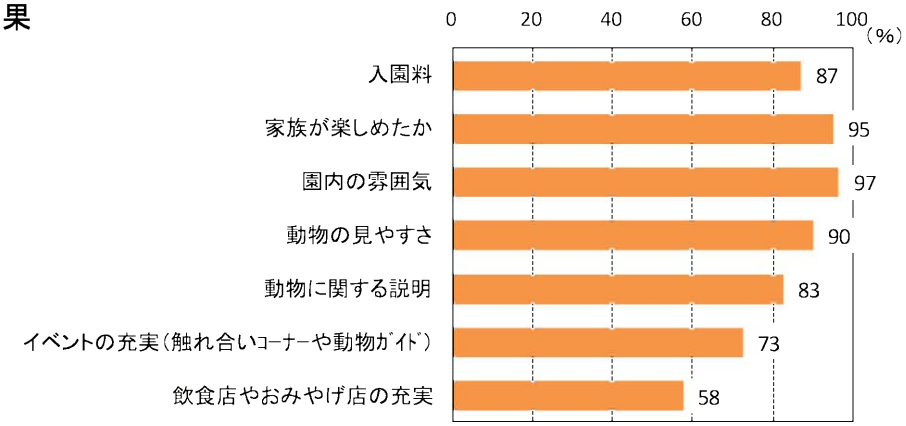
年度	回数
H24	71
25	119
26	131
27	184
28	196
29	188
30	177

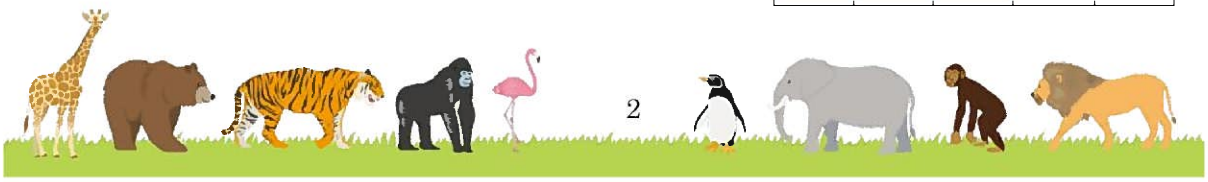
現構想策定以降の成果－４：来園者の高い満足度

○来園者からの高い評価

・来園者アンケート（平成３０年度（２０１８）実施）から見える高い満足度としては，「園内の雰囲気」，「家族で楽しめた」，「動物の見やすさ」，「入園料」等で高い評価をいただいた。

■来園者アンケートの結果





現構想策定以降の成果－５：共汗する参加者の広がり

○ボランティア

・京都市動物園ボランティアーズは昭和５６年（１９８１）に設立。毎年約５０名の方々が「おとぎの国」で動物との触れ合いをお手伝い。

○「京都市動物園サポーター制度」（京都市動物園 Zoo～っとサポーター）

・「エサ代サポーター」，「商品提携サポーター」，「看板広告サポーター」，「提案型サポーター」として，市民や事業者からの支援が増加。

○本園の取組への参画

・外部団体や機関との連携，各種イベントやプロジェクトへの参加を通じて，市民をはじめＮＰＯ団体や学識者等の本園の取組への参加者が増加。

■エサ代サポーターの実績

例：10万円以上の御寄付（特典として動物舎へプレートを掲示している）

年度	H26	H27	H28	H29	H30
プレート掲示件数	7	17	21	25	35

※平成26年度（2014）は6月以降の実績。

現構想策定以降の成果－６：研究機関としての役割・機能強化

○京都大学との連携（平成20年（2008）4月）

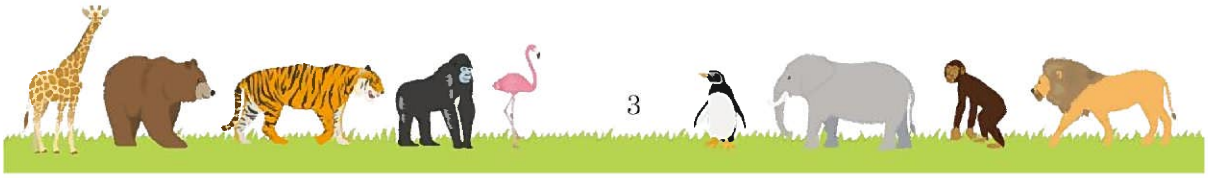
・京都大学との間で「野生動物保全に関する教育及び研究の連携協定」を締結。京都大学野生動物研究センターの教員が常駐（大学教員が動物園に常駐するのは国内初）。

○生き物・学び・研究センターの設置（平成25年（2013）4月）

・本園における学術研究と環境教育をより一層推進するために設置。「生き物について学ぶ」，「生き物から学ぶ」，「学びについて学ぶ」，「学びから学ぶ」の４つの使命を掲げる。

○「学術研究機関」として文部科学省から指定（平成30年(2018)1月31日）

・文部科学大臣から研究機関として指定を受け，科学研究費補助金による助成を受けて研究を推進することが可能となった。



2 京都市動物園の役割と更なる発展のための課題

（１）動物園の普遍的な役割と京都市動物園の役割

本園も加盟している（公社）日本動物園水族館協会（ＪＡＺＡ）[注]は，加盟園館が「種の保存」，「教育・環境教育」，「調査・研究」，「レクリエーション」の４つの役割を果たすことを目標にしています。
京都市動物園では，本園の特徴である「研究」を特に重要な役割として捉え，その成果を「種の保存・環境保全」と「教育」に反映させて，動物の飼育と繁殖，情報発信等に取り組むとともに，「学び」の中にこそ「楽しみ」があるという考えに立ち，楽しみながら学べる「レクリエーション」を市民に提供していきます。

1 種の保存・環境保全の拠点の役割

ゾウの繁殖プロジェクト，国内で唯一の三世代累代繁殖に成功しているニシゴリラの繁殖，グレビーシマウマの繁殖等，国際的な取組とともに，国内での絶滅が危惧されるツシマヤマネコの保護増殖事業にも取り組み，国内でも有数の種の保存拠点になっています。今後も，様々な種の繁殖に取り組むとともに，京都議定書誕生の地として，野生動物が暮らす環境保全についても発信していきます。

2 研究機関の役割

平成２０年(２００８)に京都大学と協定締結を行い，国内で初めて大学教員が常駐する動物園として，各種調査研究を実施してきました。平成２５年（２０１３）には研究と教育を専門で担う「生き物・学び・研究センター」を国内動物園では初めて設置し，平成３０年(２０１８)に文部科学省から「学術研究機関」として指定を受けました。
今後も，全国でも先進的な施設として，様々な研究機関と連携し，種の保存や動物福祉に関する研究等を推進していきます。

3 教育機関の役割

年間２００件近くの講演や博物館・獣医学の実習・体験学習を，市内外の教育機関を中心にお年寄りも含めた全世代から受け入れています。また，園内での動物ガイドやふれあいイベントを通して，生物多様性や命の大切さについて多くの方々に知っていただく機会を設けています。今後も，研究機関としての研究成果を来園者に分かりやすく伝えることや，来園者自らが学ぶ環境の整備に積極的に取り組み，教育機関としての役割も強化していきます。

4 レクリエーション施設の役割

「学び」の中にこそ「楽しみ」があるという考え方に立ち，生物多様性の重要性や環境教育・研究成果を市民に分かりやすく伝えることを通じて，「学ぶ楽しみ」を提供します。さらに，国の「重要文化的景観」に指定された「京都岡崎の文化的景観」を構成する施設として，そして市内でも有数の文化芸術面の「学び」を提供するエリアにある施設として，京都市京セラ美術館，ロームシアター京都，琵琶湖疏水記念館等とともに多くの来園者の方々に楽しんでいただける動物園づくりを行います。

注　（公社）日本動物園水族館協会（ＪＡＺＡ）：
Japanese Association of Zoos and Aquariums の略。国際的な視野に立って，自然や貴重な動物を保護するためにできた，国内の１４８もの動物園や水族館の集まり。

（２）京都市動物園の更なる発展のための課題

本園では更なる発展のために，以下の５つの課題に取り組んでいきます。

「いのちをつなぎ，いのちが輝く動物園」になるために

・絶滅危惧種（アジアゾウ，ニシゴリラ，グレビーシマウマ，ツシマヤマネコ，イチモンジタナゴ等）の域外保全[注1]から域内保全[注2]への展開を推進する必要があります。
・絶滅危惧種の繁殖の推進のために，繁殖施設整備について検討の必要があります。
・動物福祉に配慮した飼育環境の充実，とりわけ，動物福祉の観点から課題のあるサルワールド（類人猿舎及びサル島）の再整備が必要です。
・国際的な枠組みの中で中長期的な動物種の飼育展示計画（コレクションプラン[注3]）を検討し，実現に向けた取組が必要です（Species360[注4]への加入等）。

「研究する動物園」として発展するために

・京都大学をはじめとする研究機関と連携した研究により，動物の知性や生態の理解を進め，動物の飼育・繁殖・福祉に繋げる必要があります。
・本園の研究成果を市民に分かりやすく発信し，動物園ならではの研究について学んでもらうことが必要です。
・動物の社会的行動や特性から人間社会について学ぶという観点を取り入れた研究を進める必要があります。

「楽しく学べる動物園」となるために

・ＳＤＧｓの取組等，身近な環境から地球レベルの環境問題に向き合う機会となる環境教育施設としての機能・コンテンツの充実が必要です。
・全ての世代に対応した生涯学習施設としての機能・コンテンツの充実が必要です。

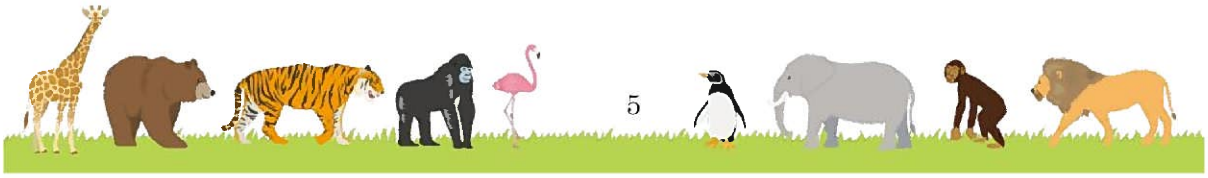
「多くの人が集う動物園」となるために

・国際文化観光都市である京都に立地する動物園として，観光客の多様化，特にインバウンドに対応した施設，展示の充実・配慮が必要です。

「近くて楽しい動物園」として発展するために

・現代的な展示手法や動物福祉の考え方を積極的に取り入れた飼育，展示施設の充実を図る必要があります。
・施設の長寿命化（計画修繕）の実施や中長期的な目線で施設整備を検討することが必要です。
・様々な年代の方にお越しいただけるように，ユニバーサルデザイン化を進めることが必要です。

注１　**域外保全**：絶滅危惧種を守るため，動物園等安全な施設に生き物を保護して，それらを増やすことにより絶滅を回避する方法。
注２　**域内保全**：絶滅危惧種を守るため，本来の生息地で自然環境を維持しつつ，その個体群や群落の保全を図ること。
注３　**コレクションプラン**：生物の保存，繁殖に取り組むために生物を選定，分類し，管理していく計画のことで，展示する各個体の繁殖・飼育管理の方針について検討するもの（３８ページ参照）。
注４　Species360：世界水準の動物管理情報を提供する世界最大の非営利団体。システムを通じて国内外における繁殖可能な飼育下動物の情報を得ることができる。



3 京都市動物園が目指す方向性と取組

京都市の最上位の都市理念である「世界文化自由都市宣言」の下，現代の動物園としての役割を果たすため，「京都市動物園理念」を以下のとおり定めます。

（1）京都市動物園理念

動物園の役割は時代とともに変化してきました。地球規模での環境破壊が進むなか，いま，現代における新たな動物園像が求められています。人間もまた地球に生きる動物の一員であることを踏まえ，京都市動物園は，ヒトを含む全ての動物のいのちと暮らしに敬意を持って向き合い，市民の皆様とともに動物園文化の成長と発展に寄与することを目指します。

（2）行動指針

①種の保存

絶滅のおそれのある動物種の繁殖に取り組み，希少種のいのちをつなぎ，種の保存に寄与します。

アジアゾウやニシゴリラ，グレビーシマウマ等が国内の動物園からいなくならないように，また，日本の絶滅危惧種であるツシマヤマネコや京都の絶滅寸前種であるイチモンジタナゴを支えるために，希少種の繁殖に取り組みます。

②動物福祉

動物の福祉に配慮し，いのちを輝かせる飼育･展示を行います。

群れを作る動物は群れで飼育し，樹上を利用するものは利用できるように環境を整え，動物が幸せに暮らすことができるように配慮します。

③研究

野生動物の行動や生態，動物福祉等の研究を推進し，生物多様性の保全に寄与します。

動物園では国内初となる，科学研究費補助金を申請できる「学術研究機関」として文部科学省から指定を受けました。これらの外部資金を活用する等研究を積極的に推進します。

④楽しく学ぶ

種の保存の取組や研究の成果を活かし，幅広い年齢層を対象に環境教育を実践し，楽しい学びの場を提供します。

市民一人ひとりが「生物多様性」や「環境保全」を自分ごととして捉え参画することを支援し，環境意識が向上する場となることを目指します。

⑤安心安全

安心で安全な動物園であり続けます。

来園者や職員，そして，飼育動物の安全を守るために，定期的な点検や検証，研修を通じて，安全への意識を低下させることのないように，万全の対策を講じてまいります。

⑥発信

様々な市民・団体との共汗により，人と動物に係る文化を発信します。

動物園だよりなどの刊行物やＳＮＳ（Twitter，Instagram，Facebook）等，時代に応じた広報媒体を活用し本園の動物たちの魅力や取組を発信します。

（３） ５つの柱と２７の施策（◇は新構想から新たに追加した取組）

柱１　生物多様性の保全に力強く貢献し，日本をリードする動物園

施策　１　持続可能な飼育展示・繁殖の推進
施策　２　国際的な希少種の域外保全の推進
施策　３　国内希少種の域外・域内保全の推進

柱２　野生動物の行動や生態，福祉を研究する世界水準の動物園

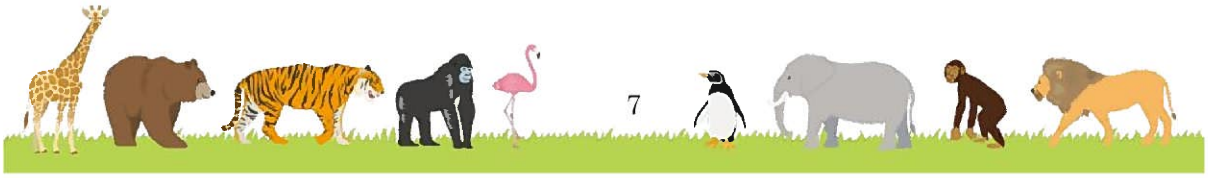
施策　４　希少種の保全や動物福祉の研究の推進（◇）
施策　５　動物の子育て，競合，協調から人間・社会を学ぶ研究（人間教育）の推進（◇）
施策　６　遺伝子解析を駆使した繁殖・保全の推進（◇）
施策　７　学術機関との連携による研究・教育普及活動の推進（◇）
施策　８　動物福祉の研究の飼育環境・教育普及事業への活用（◇）

柱３　文化教育施設として日本国内のオンリーワンを目指す動物園

施策　９　動物園における環境教育の充実（◇）
施策　１０　「きょうと☆いのちかがやく博物館」事業（4園館連携）の推進（◇）
施策　１１　京都府立植物園との政策と事業の融合・連携の推進（◇）
施策　１２　国内外の実習生の受入れによる教育の場の形成（◇）
施策　１３　京都市立芸術大学との連携等，文化を発信する場としての機能向上（◇）
施策　１４　世界に向けた研究成果や動物園の取組の発信（◇）
施策　１５　学校教育の素材としての動物園の活用の推進

柱４　多くの人が集い，多くの学びを広げる動物園

施策　１６　岡崎地域活性化のための連携
施策　１７　外国人観光客の誘致（多言語化等）（◇）
施策　１８　「環境都市・京都」の発信による教育旅行の誘致（◇）
施策　１９　効果的な広報活動の展開

柱５　「近くて楽しい動物園」の更なる発展

施策　２０　展示の充実及び「エコ・Zoo」の推進
施策　２１　ユニバーサルデザインの推進
施策　２２　顧客満足度（CS）の高いサービスの提供
施策　２３　市民ボランティアとの協働（◇）
施策　２４　共汗に基づく市民及び企業の参加促進
施策　２５　ハード整備の推進（◇）
施策　２６　動物舎の計画的な維持・管理充実（◇）
施策　２７　運営体制の充実及び更なる安全対策の実施（◇）